

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立九条弘道小学校

校長 日吉 肇

今年度、6年生を対象に実施されました「令和7年度全国学力・学習状況調査」の調査結果についてお知らせいたします。本調査は、①「国語」「算数」「理科」3教科の「学力調査」、②子どもたちの学習意欲や学習方法、家庭における学習環境や生活の諸側面等に関する「児童質問紙調査」を通して行われました。

ここでは、「総合結果」、「国語科・算数科・理科の結果」、「児童質問紙調査から見る傾向と課題」について、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

3教科とも全国平均を上回っています。国語科の回答傾向からは、選択式・記述式どちらの形式の問題も正答率が全国平均より10%程度高く、非常に良い結果といえます。算数も同様に、選択式でも記述式でも全国平均を10%以上高く、非常に良い結果となりました。理科も正答率は全て全国平均を上回っていました。普段から学習の中で粘り強く課題に取り組む姿勢が育っていることが伺われます。

国語科について

「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべての領域で、全国平均を10%程度上回っていました。

【◎よかった点と△課題】

- ◎図表等を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。
- ◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。

△目的に応じて、文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。

4つの資料と子どもたちの話合いの様子を読み、どんな意見を話しているか資料から選ぶ問題。全国正答率は5割を切っており本校でも52.4%の正答率でした。
必要な情報を見付けるためには複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要です。その際、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行っていきたいです。

算数科について

算数科では、全体的にバランス良くすべての領域で全国平均を10%以上、上回っていました。特に、「変化と関係」領域の問題が全国平均に比べ正答率が高い結果でした。問題形式でも、選択式、記述式を問わず回答することができていました。

【◎よかった点と△課題点】

- ◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる。
- ◎棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる。
- △分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

分数の計算は間違いなくできているが、「もとにする数」の理解や「数や言葉を使って説明する」という部分で不十分な回答が目立ちました。
「計算ができる」だけでなく「やり方を説明する」「言語化する」という練習を繰り返し、深い理解につなげていきたいです。

理科について

ほとんどの領域において全国平均を上回る結果となりました。しかし「エネルギーを柱とする領域」については正答率が全国平均を下回るものがありました。

【◎よかった点と△課題点】

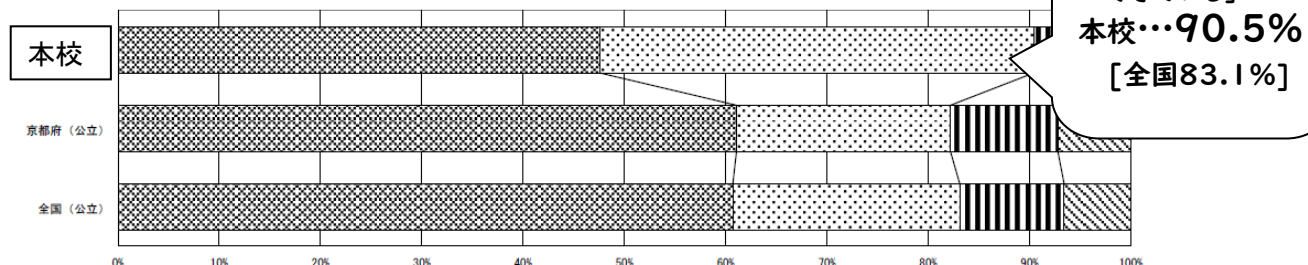
- ◎ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる。
- △電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる。

解決したい問題を見出すことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが大切です。また、子どもたちが明確な目的を設定し、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにしていきたいです。

児童質問紙調査から

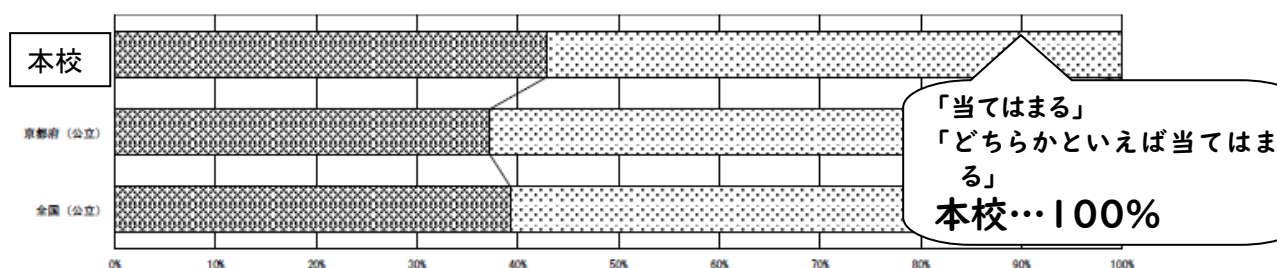
児童質問紙は、大きく分けて「生活に関する質問」と「学習に関する質問」からなり、子どもたちの学校生活や家庭生活の様子を含めた学習状況を把握し、教育指導や学習・生活状況の改善等に生かすことを目的としています。

○Q. 将来の夢や目標を持っていますか



将来の夢や目標について尋ねられた際、本校では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた子どもの割合が90%を超えました。学びを通して「どんな自分になりたいか」について考え、そのために学び続けるという目的を理解していることがわかります。

○Q. あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字・コメントを書くなど）ことができると思いますか。



ICT機器の活用に関する質問では、すべての子どもが「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しています。この他にも、検索等の情報収集や友達との意見の共有や比較する際に活用等を問う質問の実現度も高く、普段の生活や学習の中でPC・タブレット等のICT機器を使いこなせている様子が伺われます。

結果から日々の授業へ

学力・学習状況調査は、6年生で実施されますが、問題の内容は各学年での学びがもととなっています。結果から分かったことを、全ての学年で日々の授業に生かすべく取り組んでいるところです。今後も「基礎的・基本的な知識や技能」を身につけるだけでなく、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学ぶ力」を身につけることができるように取り組んでいきます。これらの力をつけていくために、主体的で対話的な学びをつくり、子どもたちが考えを話し合う中で深い学びとなるように授業を構築していくことをめざします。

学校での学習を家庭学習と連携し、確実な定着を図ることも大事にしたいです。あすいき学習（自主学習）の充実をめざし、子どもたちの主体的に学ぶ姿を高めていきます。

保護者の皆様へ

今回の調査において、本校でこれまで取り組んできた学力向上に向けた取組の成果は少しずつ見られています。この結果を支えているのは、ご家庭における基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化であると考えています。これからも保護者の皆様のご協力を得ながら、様々な取組を進めてまいりたいと思います。その意義をご理解の上、今後も子どもたちの豊かな学びや成長のため、お力添えいただきますようお願いいたします。